



大分の青少年

令和7年度 中学生・高校生地域リーダー育成研修

7月12日(土)に宇佐市安心院町にて「中学生・高校生地域リーダー育成研修」を開催しました。県内の中学校4校、高等学校7校から43名が参加し、安心院中央公民館で「地域の魅力と中高生の魅力」「ぶどう産業を盛り上げる」のテーマでの講演、株式会社ドリームファームズで演習を行いました。



講師の先生方

左 ドリームファームズ代表宮田氏
中央 日本文理大学 高見先生
右 ドリームファームズ代表安部氏



みんな集合



ぶどうの袋掛けを体験

〈参加者の感想〉

- ・グループのみんなが優しくてコミュニケーションが取りやすかった。初めて会う人と話すのは得意な方ではないけど今日は自分から積極的に話せたので、成長できる良い機会となった。
- ・なんでも挑戦してどんどん行動することが大事だと学びました。挑戦して失敗しても、続けること、成功するまでの過程が大事なことを学びました。リーダーになるために今日のことを生かし頑張っていきたいです。
- ・今後どんなリーダーでありたいかや、人生の生き方を教えてくれて大学後の見通しが立てられたのでよかった。

今回の研修成果を参加した中高生が暮らすまちへと自らフィードバックするなど、地域を担う人材へと成長してくれることを期待しています。

「大人が変われば子どもも変わる」県民運動

青少年問題の解決にあたっては、まず大人が青少年のお手本として模範を示す必要があります。大分県青少年育成県民会議と市町村民会議では、大人がお手本を示す「大人が変われば子どもも変わる県民運動」に取り組んでいます。県民会議では、青少年の被害・非行防止強調月間である7月に、JR大分駅前であいさつ運動を実施し、あいさつを通じて子どもたちを地域で守り育てるという意識の高揚を図りました。

今後も、青少年の健全な育成と青少年を育てる地域づくりに取り組んでいきます。



発行：大分県青少年育成県民会議・大分県
(大分県大分市大手町3-1-1 大分県生活環境部生活環境企画課内 (TEL097-506-3076))

ホームページ： <https://www.pref.oita.jp/soshiki/13000/seisyounenikuseijigyo.html>

E-mail： oita.patrol@gmail.com

少年の主張

大分県大会



第47回を迎えた今大会には、県内22校から1,521作品の応募がありました。8月29日、別府市中央公民館で開催された大分県大会では、第1次、第2次審査を経て選ばれた10人の中学生がそれぞれ日常や学校生活の中で体験したこと、感じたことを発表しました。

また、アトラクションとして別府市立青山中学校合唱部による発表を行いました。

大会発表者作品

最優秀賞

逃げた先に見えた夢

島村 音羽 竹田市立竹田中学校3年

優秀賞

私の大切な一步

小野 ソフィヤ 別府市立北部中学校3年

当たり前ものは特別なもの

亀井 美咲 臼杵市立西中学校3年

優良賞・大分県教育庁賞

「かわいそう」という名の偏見

後藤 葉日 別府市立朝日中学校3年

優良賞・共感賞

魔法使いと日記

明石 結宇 大分県立大分豊府中学校3年

優良賞

愛と勇気をもって

藏下 祥貴 宇佐市立宇佐中学校3年

二つを知る

佐藤 大樹 別府市立別府西中学校2年

大切な存在

酒見 華望 竹田市立竹田中学校3年

「受験勉強3時間」は嘘か

中嶋 葵生 佐伯市立佐伯城南中学校3年

「ありがとう」の反対

小野 凌佑 宇佐市立院内中学校3年

作品介绍

第47回「少年の主張大分県大会」最優秀賞

逃げた先に見えた夢

竹田市立竹田中学校3年
島村 音羽



「逃げるのは、悪いことなの？」

これは、私がずっと自分に問い続けてきた言葉です。私は小学生のころ、何もかも完璧に成し遂げたいと思っていました。勉強では良い成績を取りたい、友達には嫌われたくない、先生には「優秀な子」と思われたい。そうやって、時には自分に無理をさせながら頑張り続けていたのだと思います。

しかしある日を境に、私の生活は一変しました。目の前が急に真っ暗になり、手足が攣って動かなくなり、気づいたら病院にいました。診断名は「起立性調節障害」そして「過換気症候群」。何かを始めようとしても、止まらない手の震え。発作の度に聞こえる自分の存在ごと否定される幻聴。この世界からいなくなった方が楽になれる。そう何度も感じました。その日から自分を責める日々が続きました。

「頑張りたいのには、頑張れない。」

それが当時の私にとって一番つらいことでした。学校を休むようになってからも、自分が逃げているように感じていました。朝起きれないことはもちろん、ご飯もろくに喉を通らず、何に対してもやる気は起きませんでした。身体は生きているのに心は死んでいくようで、どんどん孤独は重なりました。

そんな私に、母がかけてくれた言葉があります。それは、「逃げることは、悪いことじゃないよ。自分の身体を心を守ることは、生きていくうえでとても大切なことなんだよ。」という言葉です。かけてもらった瞬間、心が救われた気持ちになりました。私は私のままでいい、そう思えたからこそ、徐々に自分と向き合う時間がとれるようになりました。

その中で、「なぜ体はこんなふうに対応するのだろうか？」と、体の仕組みや薬の働きに自然と興味や湧くようになりました。体調が悪い時に薬を飲むと、少しずつ楽になっていき、薬には人を助ける力があるんだと実感しました。

薬という手段で人に希望や救いを届けられる薬剤師という職業を知り、「私もこうなりたい」と強く思いました。この気持ちは病気になってから得られたものの一つです。そして、もう一つ得たものがあります。それは「辛い人の気持ちに敏感になれたこと」です。元気だった頃の私は、体調が悪くて休んでいる友達にどう声をかければいいのか分からず、正直どこかひと事でした。でも今は、目に見えない不安や苦しさを抱えている人にそっと気づけるようになったと思います。辛いときには側にいてくれる人がいるだけで、少し心は軽くなります。だからこそ、私もそんな人を目指すようになりました。

今でも過換気症候群による発作や、幻聴は完全にはなくなりません。しかし私は、「一度立ち止まる」という選択肢を知っています。もし、あの時「逃げるのは悪いことだ。」と無理に続けていたら、私は身体も心も深く傷ついていたかもしれません。そして、薬剤師という夢にも、人の痛みに気づける自分にも出会えなかったと思います。

逃げることは「おわり」ではありません。

それは、自分を守り、新しい自分と出会うための「はじめ」なのです。もちろん、何でもすぐに諦めて逃げるのではなく、「今の自分にとって必要なことは何か。」を考えることは大切です。でも、「逃げる＝悪」と決めつける必要はありません。

「逃げてもいい。あなたがあなたを大切にすることは、何よりも意味があることだよ。」そう、過去の私に、そして今、同じように苦しんでいる誰かに伝えたいです。

私は、薬剤師になるという夢を胸に、少しずつ前に進んでいきます。逃げたことで広がった視野と深まった心。それが、私の未来を創っていきます。

大分県大会の様子



県民会議加盟団体の活動

大分市キャンプ協会

☆新規加盟団体です☆

大分市キャンプ協会は、令和3年8月8日(山の日)に公益社団法人日本キャンプ協会の公認指導者資格を有するメンバーが中心となり設立した団体です。

生活体験や自然体験の機会が減っている子どもたちに、キャンプやアウトドアを通じて、自然の大切さや楽しさを伝え、自主性・協調性・コミュニケーション力などを身に付けてもらうことを主な目的として活動しています。

現在では、会員や活動を応援して下さるスポンサー様も増え、子どもだけではなく大人も楽しめるイベントやキャンプ講座も開催しており、令和4年8月4日には公益社団法人日本キャンプ協会の課程認定団体にも認定され、キャンプ指導者の育成にも力を入れています。



秋キャン(るるパーク)



高崎山ハイキングwith清掃登山(高崎山)

問い合わせ先 050-6872-9302

大分県BBS連盟



大分刑務所矯正展に協力する別府BBS会員



佐伯地区BBS会の「ふれ愛のいも畑」(収穫祭の様子)

明るい社会を目指して75年

「BBS」とはなんですかとよく聞かれます。BBSとはBig Brothers and Sisters Movementの略で、子ども・若者が非行に陥っても立ち直ることができ、生きづらさを抱えながらも安心して生きていける社会を築こうと、兄や姉のような立場で先導する全国的な運動です。

大分県におけるBBS運動は、昭和26年に当時の大分大学の学生らによって始まり県内に広がって行きました。現在は県内5地区でそれぞれの地区会が活動を行っています。

日本でBBS運動が誕生して78年が経過した今、SNS等の普及により社会が変容する中、子ども・若者の生きづらさが深刻化していると言われていて、日本BBS連盟は、運動の対象を従来の「非行少年・社会不適応少年」から「生きづらさを抱える子ども・若者」というように幅広く定め、より広範囲に活動できるようにしました。

大分県BBS連盟は、更生保護団体の一つとして、これまでも大切にしてきた「同じ目の高さ」で子ども・若者が生きづらさを抱えながらも安全で安心して生きていくことのできる明るい社会の実現を目指して活動に取り組んでいます。

問い合わせ先 097-532-2053(保護観察所内)

大分県更生保護女性連盟

本会は、「ほっとけない精神」と「母の心で愛の手を」をモットーに現在1541名の会員が県内18地区で様々な活動を行っています。矯正施設や更生保護施設との交流や支援、社会を明るくする運動の啓発広報活動、挨拶運動の展開、入学時や卒業時、10歳になる子どもさんへお祝い品のお届け等の活動を地区会ごとに行っています。

県連の活動の柱は、広報誌「更女だより」の発行による活動の共有、また年1回の全体研修会の開催による自己研鑽の2つです。さらに青少年育成県民会議や再犯防止推進会議、留置施設視察委員会等に代表を送っています。「次代を担う青少年の健全な育成に努める・・・」という本会の綱領に則り、これからも活動を続けてまいります。

問い合わせ先 097-532-2053(大分保護観察所内)



登校時に明るくやさしく「おはようございます」



新1年生にプレゼントする手作りホゴちゃん

市町村の取組

大分市（大分市青少年健全育成連絡協議会）



歴史探訪歩こう会



登下校の見守り活動

大分市には、65の地区・校区青少年健全育成（連絡）協議会があり、「大人が変われば子どもも変わる」、「地域の子どもは地域で守り育てよう」との基本理念に立ち、子どもたちが安心して暮らせる街づくりを目指して様々な活動に取り組んでいます。

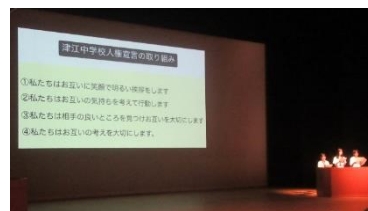
「健全育成活動」として、各地区・校区の特色を生かした体験活動や広報誌の作成、あいさつ運動などを行う「1校区1特色活動」、地域の安全確保に向けた「すこやか大分っ子サポートパトロール」や登下校時の子どもたちの見守り活動を行っています。併せて、校区内や通学路の危険箇所の点検や危険マップを作成するなど、危険箇所の把握・安全対策を行う「環境浄化活動」も青少年補導員と連携し、行っています。

日田市（日田市青少年問題協議会）

日田市青少年問題協議会は、関係機関の事務局による専門委員会、関係機関の長による委員会を設置し、各団体の事業報告等を行いながら連携を図っています。

また、青少年の健全育成に関する市民意識の一層の高揚のため、令和7年7月12日に第43回日田市青少年健全育成大会を開催しました。今回は、日田市連合育友会の教育振興大会との合同開催となりました。

大会では、咸宜小学校、津江中学校、日田高等学校、咸宜公民館、咸宜小学校育友会、津江小中学校育友会より、それぞれの実践事例が発表されました。さらに、別府大学文学部人間関係学科教授の長尾秀吉氏をファシリテーターにお迎えし、「学校・保護者・地域・公民館・子どもの連携とやりがいを高めるには」をテーマに、公民館及び育友会の発表者と会場参加者を交えて討議を行いました。



実践事例発表



討議

杵築市（杵築市青少年健全育成協議会）



松林再生活動



郷土歴史学習

杵築市青少年健全育成協議会は、市内14小学校区（旧小学校区含）ごとに組織された地区育成会議の活動支援を中心に活動しています。本年度は学校や警察、各種団体と連携し、夏祭りや花火大会時における特別補導（パトロール）を実施し、子ども達にとって身近な存在である市内の小中学や関連する高校の先生方や青少年健全育成団体スタッフの声かけにより非行の事前防止に繋げる取り組みを行うことができました。

令和6年度における各地区での活動は、住民自治協議会や地域団体・PTAなどと協力して、あいさつ運動や地域内の定期的なパトロール、世代間交流事業（スポーツ大会等）を実施しました。その他、地域の特色を活かした活動として専門家を招いての「松林再生活動」や地域の魅力を再発見する「郷土歴史学習」などを行いました。